おくのえいこ県政報告

明日に向かって えいえいOH！

Vol.6
平成25年５月発行
発行：自由民主党
富山県議会議員会

ごあいさつ

日に日に暖かい春の陽気を感じる季節となりました。

今年は、県議会にて、教育分野と警察公安分野を所管する教育警務常任委員会の副委員長を拝命いたしました。より地域に密着した分野でもありますので、一層皆様との情報交換を密にして活動に反映させていきたいと考えております。

任期も折り返しを迎えましたが、一層の精進をお誓いし、活動報告に代えさせて頂きます。

富山県議会議員
奥野 詠子

一般質問 3月11日(月)

【がん検診の推進について】

PICK UP

昭和56年以降、がんは死亡原因の第一位となり、その数は年間30万人を超えています。
厚生労働省ではがん対策の一環として、40歳以上の男性と20歳以上の女性を対象に、がん検診の受診率50%達成を目標に掲げています。
平成22年の国民生活基礎調査では、富山県の受診率は胃がんが38.4%、大腸がんが27.5%、肺がんが29.6%、乳がん35.8%、子宮がん34.4%となっています。
中でも日本の乳がん検診、子宮頸がん検診は、OECD加盟国30か国の中でも最低レベルです。

Q. 今後、若い女性を対象に、がん検診に対する意識啓発が必要と考えるが、富山県の地域性や県民性に即した意識啓発について、どう取り組むのか。

知事

A. がん検診受診率50%は達成したい。中でも女性のがん、特に子宮がんについては、罹患年齢のピークが30歳代と若く、若い女性に対する啓発は大変重要だと思っている。
新年度において、市町村に対して引き続き、節目検診や重点年齢検診に助成をする。特に子宮がん検診には20歳代から助成を行い、受診者の自己負担の軽減を図るとともに、がん対策推進の啓発活動の支援を行う。また新しく夜間や休日検診の実施など、利便性の向上に向けた創意工夫のある取り組みに支援したい。

Q. 企業への啓発や企業等の従業員が受診しやすい環境づくりなどが必要であると考えるが、どのように取り組むのか。

PICK UP

企業にはがん検診を実施する義務はないため、健康診断にがん検診が含まれない場合や、オプションとして希望者のみがん検診を受診するケースも多くあります。
またがん検診を受診しなかった理由として、若年層では「平日は時間がない」「面倒である」といった回答が多数を占めていることから、企業が実施する健康診断にがん検診を標準的に組み込むといった取り組みも効果的と考えられます。

知事・厚生部長

A. 企業、事業所の規模が小さくなるほど、がん検診の受診率が低い。商工団体による事業主に対する取り組みを引き続き支援するほか、がん対策推進に対する協定、がん対策推進員の要請を図るなど、職域への意識啓発を強化したい。
また若い女性への対策として、患者会や検診機関とも連携をして、ピンクリボンキャンペーン等による乳がん対策の普及啓発に引き続き取り組む。また新年度から定期接種化が予定されている子宮頸がん予防ワクチンの普及啓発に合わせて、子宮がん検診の啓発を行う。

Q. 婦人科の敷居が高いことや男性医師による検診の抵抗感から受診を見送る人もいるが、女性が検診を受けやすい環境をどのように整備するのか。

知事・厚生部長

A. 女性のみの検診日を設け、女性スタッフで対応するレディース検診の実施や立ち寄りやすいショッピングセンター等での検診の実施、集団検診の際のボランティアによる託児所の設置といった取り組みを行っている。また子宮がんや乳がんの検診の際には、検診官も県内医療機関との連携により、できるだけ女性医師を確保し、受付も女性スタッフのみで対応するなど、女性が抵抗感を感じにくい工夫をしている。
県はこうした取り組みを県民に広く周知するほか、市町村や検診機関における女性向けの検診機会の拡大や女性が受診しやすい環境づくりを一層推進していきたい。

【プロスポーツの推進について】

PICK UP

県内には、サッカー「カターレ富山」、野球「富山サンダーバーズ」、バスケット「富山グラウジーズ」と3つのプロスポーツチームが誕生しているが、観客動員、経営ともに苦戦が続いています。

Q．県内プロスポーツの観客動員数の推移から、県民のプロスポーツに対する意識は、順調に醸成されてきたと言えるのか

知事・観光地域振興局長

A．県内のプロスポーツが活躍すれば、富山県のスポーツ振興やイメージアップの効果も期待できると考えている。

しかし、観客動員数は今までのところ低迷しており、経営も観客数の低迷や景気悪化に伴うスポンサー収入の減少により、いずれも大変厳しいと聞いている。本来は独立採算が原則だが、スポーツ振興や地域活性化につながる取り組みには積極的に支援していく。

Q．プロスポーツの観光資源としての活用や効果について所見を問う。

PICK UP

富山県内で開催されるホーム戦の際には、対戦チームだけでなく、サポーターも県外から応援に駆けつけます。アルビレックス新潟の本拠地、新潟県では、J1昇格を決めた2003年の食事代や宿泊代、おみやげ代などの経済効果について、31億円に上ったと算出しています。

観光地域振興局長

A．新年度から北陸新幹線地域資源PR事業の一環として、プロスポーツチームの運営を側面から支援したいと考えている。

これまでもアウェーの試合会場に出向いて、富山県の観光PRと物産販売を行っているほか、ホームゲーム市町村サンクスデイでは特産品販売にも取り組んでいる。今後は、アウェーでは新幹線開業や地域資源PRに取り組み、ホームゲームでは観光を組み込んだ応援ツアーや応援宿泊プランなど、商品造成の働きかけも行い、少しでも長く滞在し、県内各地を回ってもらえるような仕掛けも工夫していきたい。

Q．プロスポーツの支援策として、県有施設においてネーミングライツを採用してはどうか。

PICK UP

地方自治体の中には、自治体とプロスポーツが共同事業者として企業に命名権を売り、その契約料を行政と運営会社が折半するという仕組みのネーミングライツを採用しているところがあります。

サッカーでは、新潟県とアルビレックス新潟の東北電力ビッグスワンスタジアムや、大阪市とセレッソ大阪のキンチョウスタジアム、千葉市と千葉ロッテマリーンズのQVCマリンフィールドなどが有名です。

知事

A．県有施設でネーミングライツを採用することが出来れば、県の一般財源の確保にも繋がるが、地方の施設ではPR効果の面で広告主の確保が難しい上、企業名や商品名が使われることに対し、県民がどう受け取るかについても熟考する必要がある。

さらに契約料を特定のプロスポーツチームと折半するということは、施設を利用する他の競技団体との公平性の問題もあることから、十分検討する必要がある。

【障がい者ヘルパーについて】

Q．富山県の障がい者ヘルパーの利用率が低い要因と、利用率向上に向けた今後の取り組みについて問う。

PICK UP

富山県の障がい者ヘルパーの人口1万人当たりの利用者数は4．2人と全国最下位の利用率です。

障がい者ヘルパーの資格を取得するには、ヘルパーの資格に加え、視覚障がい、全身性障がい、知的障がいなど、それぞれ対象となる障がいの種別ごとに16時間から20時間の研修を受講する必要があります。

知事・厚生部長

A．平成24年11月分の障がい者のホームヘルプサービスの利用者数は465人となっており、富山県は他県と比べても低調である。

その要因として、利用者に対するサービス内容や利用方法のPRが十分でないこと、障がい者に対するサービスを提供できるヘルパーが不足していること、ほとんどの事業所が介護保険サービスと併せてサービスを提供しており、専門性などの観点から介護保険サービスが優先して提供される傾向にあることが考えられる。

来年度は新たに事業所の職員に、障がい者に対する認識を深めてもらうために、障がい特性に関する少人数研修を、県内4つの圏域それぞれで複数回実施することにより、適切にサービスを提供できる人材を養成していきたい。

【知ってほしい！】
子宮頸がんは若い人のがんです!!

3人にひとりががんを患う時代。
厚生労働省は、がん検診の受診年齢を男性は40歳以上、女性は20歳以上と定めています。
そう、女性は20歳からの受診が必要なのです!!

どうして?!

がんの中でも、特に若い女性に罹患率の高いがんがあるためです。
それは『子宮頸がん』。
子宮の入り口、子宮頸部にできるがんです。
罹患のピークは20代後半から30代前半、この年代でがんを患う人の8割以上が、この子宮頸がんです。

原因は?!

子宮頸がんの原因の9割がHPV（ヒトパピローマウイルス）であることがわかっています。
このウイルスは、性交経験のある女性であれば、およそ8割のひとが一度は感染しています。
決して特別な人だけが罹るものではありません！

早期発見を!!

前がん状態または初期で発見することが出来れば、子宮の温存ができ、妊娠、出産が可能です。
月経がはじまったら、定期的に婦人科を受診し、体調の変化などを相談するとともに、20歳を過ぎたらがん検診を忘れずに！

3月議会一般質問の詳しい様子は、富山県議会のホームページでご覧いただけます。
htpp://www.pref.toyama.jp/section/0100/

予算特別委員会にて質問いたします。
インターネットでご覧いただけます。

ちょこっとこぼれ話

メタボ体型にほっぺが赤い、きょとん顔の彼が、最近とっても気になっています。
わかりました？そう、去年の経済効果が300億円とも報道された熊本県のPRキャラクター『くまモン』です。
『くまモン』は、九州新幹線の全面開業に向けて（2011に開業）熊本県PRのために作られた「ゆるキャラ」です。2011年の第2回ゆるキャラサミットで他の強豪を押しのけ堂々の1位を獲得、公式サイトやフェイスブック、ツイッターまでやっている熊本県営業部長という一応公務員のクマです。
なぜ今くまモンなのか。
実は3月に文教公安部会で九州は熊本と鹿児島に視察に行ったのですが、なんとなんと熊本中が『くまモン』の嵐！熊本駅はもちろん、街なかのいたるところにくまモンの看板やのぼりがあり、『くまモン』が熊本を完全にジャックしていました。お土産屋さんのみならず飲食店等にもコラボ商品の数々！さらに羽田空港では、『くまモン』のラッピング飛行機まで発見！あのピカチュウに肩を並べたとは!!
一方、富山県の新幹線開業キャラクターってご存知でしょうか？知っている人はなかなかの情報通。実は県議会でも話題になっているのですけどね。イマイチだって。
この視察は県内でも今年度からスタートした高等特別支援学校を主な視察先として組んだものだったのですが、あまりの『くまモン』パワーにすっかりあてられ、くまモングッズを買い込んでしまいました。
お土産のくまモンストラップを眺めながら、富山県の新幹線開業キャラに思いを馳せています。一体どうしたら、新幹線開業キャラクターに任命された「きときと君」の認知度が上がって、あんなに愛されるようになるのやら。

Facebook、Twitter はじめました！

連　絡　先

富山県議会自民党控室
〒930-8501　富山市新総曲輪1－7
TEL 076(431)5244　FAX 076(441)8421

議　員　事　務　所
〒939-8073　富山市大町282
TEL 076(420)3530　FAX 076(420)3536

E-mail:okuno.eiko@lime.plala.or.jp